# 特別なものだけでない、まちのもの
# 知 内 町 郷 土 資 料 館

知内町郷土資料館　学芸員　竹田　聡



知内町郷土資料館

HPはこちら

## 知内町の概要

知内町は北海道の南西部にある人口約3,700人の町で、函館市から西に車で約１時間の場所にあります。一次産業が中心で、「北の華」ブランドで知られるニラや、津軽海峡で養殖されるカキなどの特産品のほか、町の大部分を森林が占めており林業も盛んです。

青函トンネルの北海道側の出入口でもあり、平成28(2016)年３月には北海道新幹線が開業しました。なお、トンネル工事の際に行われた昭和58（1983）年の埋蔵文化財の発掘調査では旧石器時代の土壙墓（どこうぼ）が見つかっており、琥珀（こはく）の垂飾を含めた副葬品は重要文化財となっています。

## 知内町郷土資料館

知内町郷土資料館は昭和59（1984）年、郷土の歴史や産業などに関する資料を収集・保管・展示して一般に供し、産業経済の振興と郷土の学術・文化の発展に資するため設置されました。先ほどふれた旧石器時代の副葬品をはじめとする考古資料も展示されています。

町内にある雷公神社に伝わる古文書『大野土佐日記』には、砂金を求めて荒木大学という人物が渡ってきたという内容のことが書かれています。実際に知内川上流では江戸時代に松前藩の命により砂金の採取が行われました。そうした地域に根ざした歴史の一端を資料や解説を交えて伝えています。


旧石器時代の墓の副葬品（重要文化財）

### 近代の知内

明治時代に入ると実業家の山田慎が開拓使から1,800町歩の土地の払い下げを受け、農場経営に乗り出します。緬羊や牛馬の飼育を奨励していたお雇い外国人エドウィン・ダンの示唆により、当初は「知内村牧畜会社」として牧畜での経営を目指しましたが、導入した緬羊が全滅したため畑作に切り替えます。

山田は郷里の福井県を中心に入植者を募り、土地を拓き、馬鈴薯や燕麦などの作物を作りました。特に大豆は良質で市場からの評価も高かったといいます。ちなみに知内村牧畜会社の最初の社長として村橋久成という人物が一年ほどいました。村橋は元は開拓使の役人で、開拓使麦酒醸造所(今のサッポロビールの前身)の設立に関わった人物です。

郷土資料館には農具も展示していますが、知内に特有の資料としてヨコバイというものがあります。への字のように曲がった木の棒で、山の斜面から斜めに生え、そこからまっすぐ上に伸びた木を加工して使っています。唐竿と同じように叩いて脱穀をする道具なのですが、近隣でもほとんど見られません。資料館の事業で農業に取り組んだ際は、このヨコバイや唐箕などを参加者に使わせています。



農機具の展示

ところで津軽海峡では青森県大間の鮪が有名ですが、明治時代には知内でも鮪が取れていた時期がありました。藤野文蔵という人物が函館から来て漁業を営み、鮪で財をなし、鮪大尽と呼ばれました。明治31(1898)年に建てられた家は鮪御殿と呼ばれ、現在は床の間部分が資料館に展示されています。床柱には南洋の銘木タガヤサンという材が使われていることからもその繁栄ぶりがうかがえます。藤野は火事にあった地元の学校を再建するのに私財を提供するなど地域に尽くした人物でもありました。

### 珍しいものはなくても

かつて知内を通っていた鉄道、松前線に関する資料は道外からもファンが訪れる展示です。営業時には町内に4つの駅があり、歌手の北島三郎さんが通学のために乗っていた渡島知内の駅名看板もあります。国鉄からJRへ、松前線や青函連絡船の廃止と海峡線の開通など、交通環境が大きく転換した時期を地元の資料から振り返ることができます。

他にも民具などを展示しており、訪れた人と話をすると「昔使っていた」「懐かしい」から始まりその方の当時の暮らしや思い出が自然と出てくることがあります。また、比較的若い方でも展示されている映写機について町内にもかつて映画館が数軒あったことを話すと、驚かれることもあります。

一方、昭和48(1973)年9月には小谷石地区を集中豪雨が襲い、死者・行方不明者8名、集落のほとんどの家屋が被害を受ける大災害が発生しました。そうした身近で起きた災害の記録を残し、展示することは単にできごとを伝えるだけでなく、現在を生きる私たちが災害とどう向き合うか考えることにつながるはずです。

郷土資料館にはどこに出しても目をひくような特別なものではなくても、その町々の人々がどのように暮らしてきたかを示す記録や資料があります。資料を見ながらこの地域の持つ特有の風土にふれ、新しい気づきを得られるのではないでしょうか。

**○ 開館データ**

上磯郡知内町字重内31-47
休 館 日　毎週月曜日・祝日の翌日(5～11月)、
　　日曜・祝日(12～4月)、年末年始　ほか
開館時間　午前10時～午後4時30分
入 館 料　無料